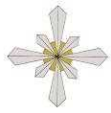


向陽中学校だより<第11号>



# 走れ向陽!

～夢の実現めざして～

平成28年10月18日(火)  
<発行者>校長 箭内仁史  
〒976-0037  
相馬市中野字桜町76  
TEL 35-2348 Fax 35-2849

<学校目標> 「知性」「品格」「至誠」「体力」を身につけた活力ある生徒  
<重点目標> 自己の目標達成のため、最後までやり通すことができる



めっきり朝・夕の冷え込みが増し、秋らしい気配感じられるようになりました。毎日の授業や各種行事、部活動等の充実を図り、知・徳・体の各能力を高めるにふさわしい絶好の時季になりました。



6日には西郷村で行われた県駅伝大会で相双地区の代表として、チーム一丸となって精一杯の走りを見せてくれました。男子21位、女子14位と大変健闘しました。たくさんのご声援ありがとうございました。



今月は、中間テストも終わり、PTA家庭教育講座(20日)、相新音楽祭(27日)、そして向陽祭(29日)が予定されています。現在子ども達は向陽祭、合唱コンクールに向けて、早朝から放課後遅くまで準備を進めています。

本番の創造性を生かした生徒の活躍が楽しみです。食堂、バザーお世話になります。

## 後期生徒会総会～前進する生徒会～



7日には後期生徒会総会を実施しました。生徒会スローガン『向信！考新！行進！～新しい一歩を踏み出そう～』に従い、前期は充実した生徒会活動が展開されたこと、後期も新しい一歩を踏み出そうという久米本生徒会長の頼もしい挨拶がありました。その後、後期専門委員会の活動計画案の報告がありました。新しい目標の達成に向けて仲間とともに全身全霊で取り組み、達成したときの喜び、満足した顔がたくさん見られることを楽しみにしています。



今回も「いつから、どんなことをするのか」「こんなことをしたらどうか」等の真剣で、建設的な意見が数多く出され嬉しく思いました。きちんと回答をしテンポ良く1時間が過ぎました。自分達の学校としての前向きな考えを持ち、少しでもより良くしていこうとする生徒会の姿が随所に見られました。さらに上を目指し、前進する生徒会に大いに期待しています。

## 県PTA研究大会郡山ブロック大会～県PTA、東北PTA表彰受賞～



15日(土)に福島県PTA研究大郡山ブロック大会が郡山女子大学で開催され、向陽中学校が県PTA連合会会長表彰を受け渡邊PTA会長様が代表で受賞しました。9月には東北PTA連絡協議会表彰もされました。長期休業中の校外巡回活動や段ボール等の資源物回収、朝のあいさつ運動など学校、家庭、地域が連携・協働して子ども達の健全育成に努めてきた永年の活動が認められたものです。おめでとうございます。これまでの



の会員の方々や学校関係者の皆様の、向陽中発展に尽力していただいたご労苦に心より敬意と感謝を表します。皆様の本校に寄せる熱い思いをしっかりと受け止め、更なる発展に誠心誠意努力いたしますの今後もご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

裏面もご覧ください

## 中学生のやる気と学力を育む家庭学習とは

福島県PTA研究大会郡山大会で参加した分科会での講演の一端を紹介します。(ベネッセ教育総合研究所 副所長 小泉 和善氏)

- 子どもたちが生きる未来社会：「サッカー型」のチームワークが必要とされる社会。一応は自分のポジションはあるが、ボールの動きや相手（敵）の動きによって、ポジションを臨機応変に変えられる能力、自分で判断し、決断して、行動を起こすことが要求される。「主体的に学び続ける力」があれば、時代時代に必要な力を身につけていくことができる。

30～40年後には、ある職業はコンピュータに代替えされ、創造的（クリエイティブ）な仕事は残る。

- 教育施策の方向性といまやるべきこと：やがて大学の入試制度が変わる。大学に入学して何をやるのか。小学校・中学校・高校・大学でを通して社会に必要な力を育てる。「問いを自分で発見し、周囲と協働しながら答えを創り出すこと」

企業が必要とする人材とは、

- ① 相手の話を丁寧に聴き、自分の意見を持ち、明確に相手に伝えることができる。
- ② 課題を見極め、解決に向けて目標を立て計画を立てられる。
- ③ 高い倫理観を持ち、チームの中で主体的に自らの役割を考え、自らを律して行動し、チームで成果を出すことができる。

- 「主体的な学び」に必要なこと：

- ① 「学習意欲」（学ぶ目的を見つけ、やる気を高める）
- ② 「自己理解」（自分を客観的に見つめ直し、行動を決める）
- ③ 「学習方法」（自分に合った学習方法を見つけ、学習の質を高める。）

- 家庭での保護者の関わり方：親子でも、単語ではなく文章でしっかり相手に伝えることが大切。

- ① プロセスを「ほめる」
- ② 共に「考える」
- ③ 子どもが「決める」

『手を離すために手をかける』